



「樹間の茜」
竹喬85歳の作品

日本の自然を描き続けた、小野竹喬の世界

竹喬美術館は笠岡出身の日本画家「小野竹喬」の作品を展示し、業績を後世に伝えるために、昭和57年2月に創設され、同年10月に開館しました。

竹喬は14歳で京都に出て、竹内栖鳳に師事し日本画を学びました。展覧会に作品を出品したり、土田麦僊をはじめとする同世代の仲間と切磋琢磨する中で、自分の表現を模索し、様々に画風を変えていきます。竹喬美術館では、竹喬89年の生涯の中で描かれた作品を詳しく紹介するとともに、竹喬の活躍した京都画壇や、竹喬の芸術の素地を育んだ岡山ゆかりの作品についての展示と収集を行っています。

◆ 施設のおすすめ

展示は竹喬作品の四季を意識しながらテーマを決めて展示しています。また、年に二回程度、他の美術館などから作品を借用して特別展を行っており、何度観に来てもらっても新しい美術との出会いや、発見があるように工夫しています。

また、館内には観覧の合間に一息つける休憩スペースや、笠岡諸島を模した中庭があり、日本の自然の美しさに思いをはせることができます。ミュージアムショップには絵葉書もあり、竹喬の絵葉書で大切な人に手紙を出すのも素敵ですね。

他にも、作品を面白く見るために学芸員がギャラリートークを行ったり、ギャラリーコンサートやワークショップも行っています。

◆ 子どもたちへのメッセージ

竹喬さんが描いたのは、日常の風景ばかりです。竹喬作品を見ることで、普段私達が何気なく見ている風景の中に、季節のうつろいを見つけたり、自然の美しさに気づききっかけになればいいなと思います。

そして、竹喬さんと同じように素直な心で、身の回りを見渡してみると、自分の考え方や世界が少しずつ変わっていくはずですよ。



がいかん
外観の様子



てんじつ
展示室の様子



おのちっきょう
小野竹喬の写真



ちっきょう えはがき
竹喬の絵葉書



はな やま
「花の山」竹喬20歳ごろの作品



いずのうみ
「伊豆之海」竹喬88歳の作品



なかにわ
中庭の様子